

平成30年度 「日刀保たたら」火入式及び操業開始

去る平成31年1月23日(水)、島根県仁多郡奥出雲町大呂の「日刀保たたら」において、本年度初の火が入り、火入式が行われ、操業が開始されました。

操業回数は本年度も三代つまり三回行うことができ、伝統技術の円滑継承と各養成員の着実な技量向上が進んでおります。三代の操業を経て日刀保た

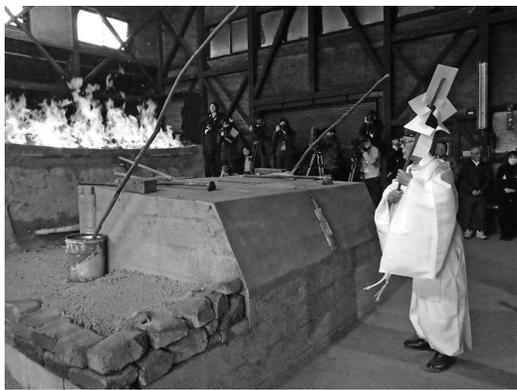
杉子女王殿下 砂鉄の装入



たらの操業回数は、復活以来一六〇回を迎えております。

本年度は、三上孝徳・堀尾薫河村下代行に加え、安藤祐介・三浦靖広の二名があらたに村下代行に昇格し、後継者育成も順調に進んでおります。文化財保護法第一四七条の「選定保存技術」の趣旨を虚心坦懐に受け止め、粛々な

火入れ式神事



る運営がなされています。

本年は、保護法の負託に応えるべく、2月9日(土)まで操業を行いました。本年は、昨年と比べて全くといえるほど積雪がなく、「雪の中のたたら」という風景とは懸隔が激しい年であったことも付記しておきます。

火入式は1月23日(水)午前10時30分、酒井忠久会長および志塚徳行常務理事の列席のもと神事で幕を開け、日立金属株式会社安来工場園山正樹副工場長、日立金属株式会社安来製作所春和彦代表取締役社長が、地元からは絲原徳康島根県議会議長・奥出雲町勝田康則町長らが出席され、午前11時30分に、今

酒井会長の挨拶



年度初の砂鉄である「初種」が木原明村下と渡部勝彦村下により装入され、三代の操業がはじまりました。酒井会長はその挨拶の中で、関係者への謝辞と引き続き選定保存技術としてのたたら的重要性を話し、現場一同の士気は大いに鼓舞されることとなりました。

来賓では奥出雲町勝田康則町長・日立金属(株)安来工場園山正樹副工場長から御挨拶をいただき、日刀保たたらへの全面的理解と協力をいただける旨のお話がありました。

期間中、研修のため清水和政管理課課長補佐・荒川史人会計課員が派遣され、たたら事業の意義深さを職員とし

木原村下による養成員の指導



て再認識しております。

三代には、彬子女王殿下のお成りがありました。酒井忠久会長および柴原勤専務理事、二階堂仁一総務部付が宮様をお迎えしました。和鉄議連の議員の訪問もありました。

昨年も書きましたとおり、本来日刀保たたら操業は非公開であり、一般への開放はしていません。玉鋼供給と後継者育成が第一任務であることと、危険な作業であり、安全確保を最優先することがその理由です。

今後も、厳正な審査の元、写真撮影一切禁止の条件で許可をお出しした方のみ最小限の人数で見せさせていただきます。今後も見学許可の方針は現在のそれを堅持して参ります。

(たたら・伝統文化推進課長 黒滝哲哉)



木原村下と無鑑査有志の会